

## ●自然体験①

12 つくる責任  
つかう責任15 陸の豊かさも  
守ろう

## 薪割り体験

## 概要

なたを使って、割り方を学び、火を起こすときに役立てましょう

※応用として、自然体験②木こりの薪づくり体験を参照

## 人数

・何名でも

## 対象

・3年生～

## 実施期間

・通年

## 所要時間

・事前：1時間

・当日：1時間～



## 活動場所

・屋外：くわの実広場 ・屋内：多目的ホール、ホワイエ、研修室（スズラン、ユキザサ など）

## 指導のねらい

- ・相互に薪割りの方法を教え合うことで、主体的で対話的な学びを促す
- ・「できた」という経験や自信から、自己肯定感の向上を促す

## 活動のながれおよび留意点

## 【事前学習】

- ① 薪の割り方シート（別紙）、インターネットを見て薪割りの方法や注意点について調べる  
※山の家 youtube 動画参照
- ② 調べた情報はプリントアウトしたり、ノートにまとめて整理する

## 【当日】

- ① グループに分かれ、薪割りについてまとめた情報をもとに、方法や注意点を確認し合う
- ② 道具を準備する  
※道具はモモンガ小屋
- ③ けがに注意しながら実際に薪を割る  
※割った薪をキャンプファイヤーや焚火に使う場合は、リリアカーにまとめておく
- ④ 全員、薪を割ることができたら、どんなところが難しかったのか、うまくできたか等、体験して感じたことを共有する

## 準備物品

## 【山の家で貸出可能なもの】

・薪（1束：350円、約10人で1束）、なた、薪割り台

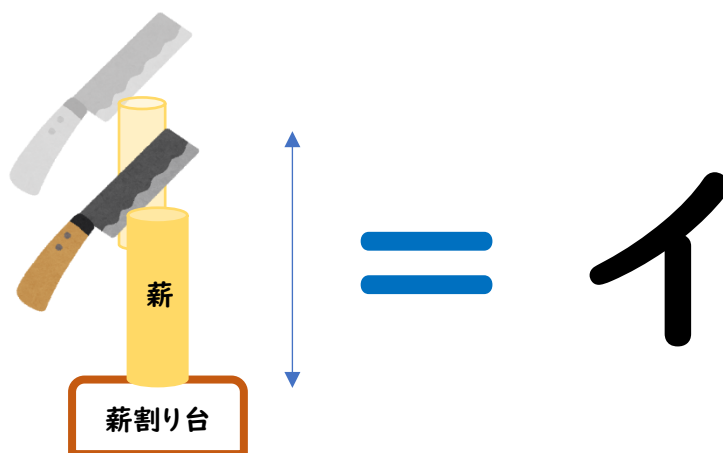
## 【団体で準備するもの】

・軍手

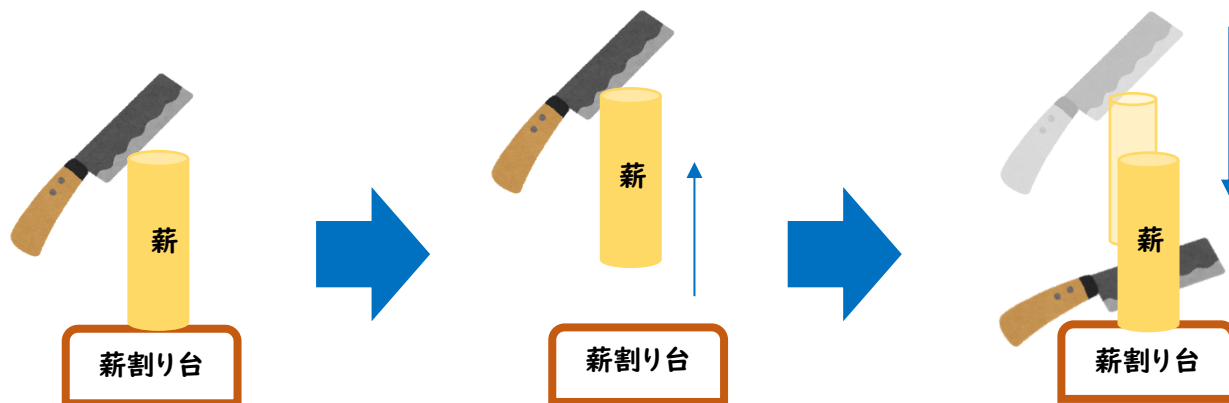
## 備考

# 薪の割り方シート

- ① 利き手(なたを持つ手)は素手で、反対の手(薪を持つ手)に軍手を2枚重ねてはめます。  
**【ポイント】**素手にすることで、なたを持つ手がすべりにくくなります。なたが薪を持つ手にあたってしまった場合でも、軍手を2枚重ねにすることにより少しでも怪我を減らすことができます。
- ② 利き手でなたを持ち、反対側の片ひざをついて安定した姿勢をとります。
- ③ もう片方の手で薪を持ち、刃の手元側を薪断面の長辺に傾けて当て、薪割り台に数回打ち付けながら、なたの刃をくいこませます。  
**【ポイント】**なたの刃に薪が食いこむと、カタカナの「イ」のような形になります。  
 山の家ではそれを、「イイ(良い)形」とよんでいます。



- ④ 刃が薪に食いこんだら、両手でなたを持ち、なたの重さを利用して、薪割り台に打ちつけるように薪を割ります。



**【！ 注意 ！】**節のあるマキは、割れにくいです。無理をせずに割れやすそうな薪を割りましょう。

頭より上に、なたをふりかぶらないようにしましょう。

隣の人に近づきすぎず、間隔をあけて薪割りをしましょう。

- ⑤ なたを置いて、その場から離れるときや、順番を交代するときは、下の図のとおり、薪割り台の下になたの刃をかくしておきましょう。

